

社会政策学会 *Newsletter*

1995.7.12

No. 4

第1回社会政策学会賞決まる

本年度から新設された社会政策学会賞に次の作品が選ばれ、第90回大会総会の際に表彰式がおこなわれました。詳しくは、次頁掲載の「選考経過」をご覧ください。

学術賞 山本 潔『日本における職場の技術・労働史・1854～1990年』（東大出版会、94年2月刊）

奨励賞 上井喜彦『労働組合の職場規制・日本自動車産業の事例研究』（東大出版会、94年2月刊）

” 佐藤 忍『国際労働力移動研究序説・ガストワルイタ時代の動態』（信山社、94年9月刊）

第九一回研究大会は秋の金沢です

関西部会主催の第91回研究大会は、10月21日（土曜）・22日（日曜）の両日、金沢大学経済学部（金沢市角間町）で開かれます。第1日午前には、前回と同じく書評分科会があります。午後から翌日午前にかけて「弾力化・規制緩和と社会政策」を共通論題に、6人の会員が次のようなテーマで報告され、2日目午後には総括討論が予定されています。ふるってご参加ください。

..... 報告者および予定テーマ

1. 中村 真人（駒沢大学）「労働時間の短縮と規制緩和・弾力化」
2. 加藤 佑治（専修大学）「労働市場の規制緩和と雇用・失業問題」
3. 柴田 悦子（名城大学）「産業における規制緩和と労働者・交通・運輸業を事例として」
4. 脇田 滋（龍谷大学）「規制緩和と社会保障・社会福祉の法政策」
5. 笹島 芳雄（明治学院大学）「欧米の失業問題と規制緩和」
6. 高梨 昌（日本労働研究機構）「今日の規制緩和と労働政策」

なお、座長には九州大学・下山房雄会員、主討論者には次の4会員が予定されています。永山利和（日本大学）、阿部誠（大分大学）、森田劭（大阪学院大学）、栃本一三郎（社会保障研究所）

会費納入のお願い

1995年度までの会費をご納入ください。まだ納入されていない方には、未納年次と金額を記載した振替用紙を同封いたしますので、なるべく早くご納入ください。なお、4年以上滞納されている会員で本年8月末日までにご納入いただけない場合は、とくにご連絡がない限り、自然退会の処置をとらざるをえなくなります。ぜひこの機会にご納入くださるよう重ねてお願いいたします。

目次

学会賞選考経過報告（栗田健選考委員長）	2
国際学会開催案内 / アンケート結果	3
第90回大会総会報告・1994年度決算・1995年度予算	4
幹事会記録（第8回～第11回）	5～8
名簿記載事項の訂正	9
お詫びと訂正	10

社会政策学会学術賞ならびに奨励賞の選考経過報告

学会賞選考委員会委員長 栗田 健

学会賞規定は1994年5月の幹事会で決定の上総会で承認され、94年7月5日発行の『社会政策学会Newsletter』NO.1で告知された。また選考委員には西村裕通、加藤佑治、竹中恵美子および栗田健の4名が選任された。

第1回選考委員会は1995年1月28日に開かれ、選考委員の互選によって栗田が選考委員会委員長に指名された。審議はまず選考委員が持ち寄った候補作品をリスト・アップし、受賞作品としての資格のチェックを行ったが、この過程で次のような選考の原則を確認した。

選考委員の業績は選考の対象としない。

「会員歴3年」の認定は、表彰が行われる大会を起点として過去3年の会員歴を有するものとする。

第1回の選考であるため、若干過去に遡って受賞作品を選考するという考え方もあるが、規定どおり1994年中に発行された作品に限定する。

この原則によって、選考委員から推薦された作品のうち有力な数点が候補作品から除外されたため、より広範に候補作品を調査し、あわせて参考に幹事全員に推薦を求めた上で再度選考委員会を開催することとした。

第2回選考委員会は4月22日に開催され、幹事から推薦のあった候補作品もふくめて討議した結果、別記のとおり3点の受賞作品を決定した。

学術賞に選ばれた山本潔会員の『日本における職場の技術・労働史・1854～1990年』は、近代欧米産業技術の導入に始まる日本資本主義における工業技術の展開を詳細かつ包括的に考察したものであり、山本氏が、これまで行ってきた各産業分野での実態調査において常に重視してきた、経済的基礎過程分析の集大成である。この作品の特徴は、著者が一方では社会的対抗の系譜としての労働史について歴大な研究蓄積を持ち、その重要性を強調しながら、もう一つの面としての労働の技術とそれに基づく人間の関係を解明するこの分野での分析を、極めて綿密に行っているため、技術の歴史が社会の歴史として描かれていることである。その総合性はこの著者のみに可能であると言ってよい到達点を示している。

奨励賞の受賞作品のうち上井喜彦会員の『労働組合の職場規制・日本自動車産業の事例研究』は、同氏がこれまでに参加した実態調査において担当した大手自動車メーカーの労使関係の実態分析を、その形成過程とその結果として残された構造とをあわせてまとめあげたものであり、かねてからその集積が望まれていた研究である。この会社の労使関係は日本労使関係の典型として多くの研究者の注目を集めており、関係する文献も多いが、上井氏の研究業績はそれらの研究にとっての原点でもあり、また集約点でもある。日本の企業別組合がどのような内容をもって労働組合機能を実現しようとするか、そして日本の企業がどのような労働組合機能を許容するかという、日本労使関係の中心的な課題を正面からとらえた業績として、その研究は日本労使関係研究にとって基底的な意義をもっている。

奨励賞のもう一つの受賞作品となった佐藤忍会員の『国際労働力移動研究序説・ガストアルバイター時代の動態』は、外国人労働者問題について常に比較研究の対象とされるドイツ(西ドイツ)のガストアルバイター問題の歴史的展開と、この労働者類型をめぐってドイツの産業内に形成されている経営労務体制を分析した作品であり、3年半にわたる滞独生活を含めて10年以上の長い研鑽の集積である。ガストアルバイターがドイツの労働者として定着するまでの労働政策や労使関係機関の活動と、この労働者たちを受け入れるために経営内に作り出された熟練形成やキャリア形成の仕組みを、それがはらんでいる矛盾や限界を含めて、高い実証性で解明しており、外国人労働者問題の研究水準を飛躍的に高めた完成度の高い作品である。外国研究という類型比較の視点を越えた、いわば当事者的な視点からの分析は、この普遍性の高い問題領域の研究として、今後の研究の起点となる業績と評価してよいであろう。

なお、今回の選考作業では、歴大な会員業績を把握することをはじめ多くの困難があった。会員業績リストも選考には間に合わないくらいがあり、また選考委員の個別的な会員業績の情報では不完全になる恐れがある。今後は候補作品のリスト・アップの活動を強化する必要がある。経験を重ねながら円滑で疎漏のない選考方法を見出すよう努力したい。今回は選考の手順に含まれていなかったため果たすことができなかったが、有力な候補作品のリストを公表することも、さしあたって目標とすべき作業であると考えている。以上

ヨーロッパ社会保障学会 (EISS) ダブリン会議

ヨーロッパ社会保障学会の大会 (Colloquium) が、本年9月7日 (木曜) から9日 (土曜) までの3日間、アイルランドのダブリンで開催されます。テーマは "America and European approaches to social security" で、Health Care, Ageing, Private vs. Public, Economic Effects の分野ごとに、アメリカ側から各1人、ヨーロッパ側から各1人の報告があり、その後討論が予定されています。各 session は、いずれも1時間半です。このほか最終日には、一般会員の papers をめぐって討議する Members session があり、同じく1時間半が予定されています。まだ、参加手続きなどについての連絡はありませんが、参加を希望される方は栗田健国際交流小委員会委員長、あるいは学会本部の二村までご連絡ください。

なお、来年度の大会は、1996年9月に、フランスのナントにある la Maison des Sciences de l'Homme 'Ange Guepin' で、New Social Risks をテーマに開催予定とのことです。

ヨーロッパ労働経済学会 (EAL) 大会

本年度の大会はフランスのリヨンで9月7日から10日に開かれます。ただ、第1次参加登録の期日が過ぎており、今から申し込み可能かどうかは不明です。ただ連絡が届いた時にはすでに締め切り日を過ぎていましたから、出席を強く希望される場合には交渉の余地はあると思います。ご希望の方は本部までご連絡ください。

なお、1996年度の大会はギリシアで9月に開かれるとのことです。来年度の大会に参加ご希望の方は、あらかじめ国際交流小委員会委員までご連絡ください。なお、ヨーロッパ労働経済学会は、出席者の過半が paper を提出するようです。昨年の例ですと、ワルシャワ大会の参加者は230人、うち Paper 提出者が150人でした。

会費値上げアンケート結果

会費値上げに関するアンケートをお願いした結果、348人の方から回答があり、結果は以下の通りでした。ご協力有難うございました。

	賛成	やむを得ない	反対	その他	無記入
1) 会費1000～2000円値上げ	48 (13.8)	207 (59.5)	81 (23.3)	8 (2.3)	4 (1.1)
2) 叢書購入の義務化	58 (16.7)	98 (28.2)	168 (48.5)	16 (4.3)	8 (2.3)
3) 大会開催を年1回に	142 (40.8)	91 (26.1)	96 (27.6)	11 (3.2)	8 (2.3)
4) 院生などの割引制導入	208 (59.7)	81 (23.3)	42 (12.1)	11 (3.2)	6 (1.7)

また、「社会政策学会に対するご意見、ご要望」の記入をお願いしましたところ、数々の貴重なご意見をたまわり、有難うございました。今後、幹事会や本部などの運営の参考にさせていただきます。

なお、ご意見のなかに「特定労組に名簿を貸し出すことをやめてほしい」とご要望がありましたが、学会本部として、そのようなことはしていません。ただ、会員名簿は、900人近い全会員に配布されており、また希望者には有料で配布していますので、これが様々な用途に使われることは、致し方ないのではないかと考えます。こうしたご要望に応えるには、会員名簿の印刷配布を中止する他ないと考えます。かつては冊子名簿は本部事務に不可欠でしたが、今ではコンピュータ使用により、名簿がなくても本部事務に不都合はありません。また、経費節減にもなりますので、会員各位のご意見によっては、名簿の印刷配布の中止はすぐにも可能です。

このほか、「銀行振り込みなら会費を公費で支出することが可能なので、学会として銀行口座を開いて欲しい」とのご要望がありました。しかし、学会本部は2年交代のため取引銀行をたえず変更せざるをえないこと、またそれだけでなくも負担の重い本部の会費関係事務がさらに複雑になるため、ご要望に応えることは難しいのが実状です。できれば、郵便振替の 払込票兼受領証 で公費支出が可能になるよう、所属される大学に働きかけていただきたいと存じます。大学の事務は有給者が担当しているのに対し、学会事務は無償労働で処理されている点をご理解ください。また、現在は領収書の送付を求められる方には、要望にお応えしていますが、会費徴収事務を 学会事務センター に委託すると、原則として領収書は発行されず、出す場合には高額の手数料をとられます。領収書でない公費支出が出来ない機関の方も、何とか郵便振替の 払込票兼受領証 を領収書として認めさせるよう、お願いしたいと存じます。

第90回大会総会報告

第90回大会総会は、1995年5月27日に成城大学で開かれました。議長には下山房雄会員が選ばれ、その任にあたりました。最初に二村一夫代表幹事が1994年度活動報告および決算報告をおこない、ついで佐口卓監事から会計監査報告があり、いずれも全会一致で承認されました。ついで、1995年度予算が二村代表幹事から提案され、全会一致で可決しました。また、総会の最後に第1回社会政策学会学術賞および奨励賞の授与式があり、栗田健選考委員長の選考経過報告の後、代表幹事から学術賞が山本潔会員に、奨励賞が佐藤忍会員に手渡されました。なお、奨励賞に決定した上井喜彦会員は留学中のため欠席されました。

活動報告では、昨年総会後、幹事会における学会改革に関する検討の概要が紹介され、本年秋の金沢大学における研究大会の際に臨時総会を開き会則改正を決定する方針であることが述べられました。

94年度決算は下記の通りで、予算より収入面で約45万円の増、支出面で約60万円の減で、予算より100万円強の繰り越し増となったこと、しかし前年度の繰り越しが218万円余であったのに、本年度は207万円余で、支出が収入を上回ったことが報告されました。

また、95年度予算の提案では、報告要旨印刷費など印刷費を中心に大幅な節減をおこなったこと、しかし、非会員に大会報告を依頼した際の交通費や叢書刊行補助費、学会賞関係費などの新費目を設けたこと、

また、大会開催費で会場校が赤字となった場合には補填できるようにするため予備費を増額したなどのため、最終的には前年同様、収入より支出を100万円以上見込んだ赤字予算となっていること、未収会費などもあるので、直ちに危機的な状況とはいえない、しかし、このままでは近い将来、会費値上げを提案せざるをえない状況にあること、などが指摘されました。

1994年度社会政策学会会計決算

自：1994年 4月 1日
至：1995年 3月31日

【収入の部】

項目	決算額	予算額	対予算増減
前年度繰越金	2,186,400	2,186,400	0
名簿発行積立金	240,000	240,000	0
会費収入	6,173,500	5,740,000	433,500
利子収入	24,673	35,000	-10,327
雑収入	96,130	70,000	26,130
預り金	690,000	690,000	0
合計	9,410,703	8,961,400	449,303

【支出の部】

項目	決算額	予算額	対予算増減
次年度大会開催費	595,000	595,000	0
報告要旨集印刷費	658,000	700,000	-42,000
研究大会費	1,070,000	1,070,000	0
部会分科会補助費	246,000	273,000	-27,000
叢書編集委員会費	24,000	24,000	0
学会連合分担金	35,000	35,000	0
幹事会費	89,397	100,000	-10,603
本部費	752,558	1,130,000	-377,442
（人件費）	105,500	300,000	-194,500
（交通・通信費）	518,242	600,000	-81,758
（事務費）	127,488	210,000	-82,512
（雑費）	1,328	20,000	-18,672
業績リスト作成費	200,000	200,000	0
名簿印刷費	303,438	480,000	-176,562
年報費	2,585,813	2,533,800	52,013
予備費	88,007	100,000	-11,993
小計	6,647,213	7,240,800	-593,587
預かり金	690,000	690,000	0
次年度繰越金	2,073,490	1,030,600	1,042,890
合計	9,410,703	8,961,400	449,303

1995年度社会政策学会予算

自：1995年 4月 1日
至：1996年 3月31日

【収入の部】

項目	95年度予算額	94年度予算額	対前年増減
前年度繰越金	2,073,490	2,186,400	-112,910
名簿発行積立金	0	240,000	-240,000
会費収入	5,950,000	5,740,000	210,000
利子収入	25,000	35,000	-10,000
雑収入	70,000	70,000	0
預り金	690,000	690,000	0
合計	8,808,490	8,961,400	-152,910

【支出の部】

項目	95年度予算額	94年度予算額	対前年増減
次年度大会開催費	600,000	595,000	5,000
報告要旨集印刷費	100,000	700,000	-600,000
研究大会費	700,000	1,070,000	-370,000
非会員交通費	150,000	0	150,000
部会分科会補助費	273,000	273,000	0
叢書編集委員会費	24,000	24,000	0
叢書刊行補助費	300,000	0	300,000
学会連合分担金	125,000	35,000	90,000
幹事会費	90,000	100,000	-10,000
本部費	1,020,000	1,130,000	-110,000
（人件費）	250,000	300,000	-50,000
（交通・通信費）	600,000	600,000	0
（事務費）	150,000	210,000	-60,000
（雑費）	20,000	20,000	0
学会賞関係費	250,000	0	250,000
業績リスト作成費	200,000	200,000	0
名簿印刷費	0	480,000	-480,000
名簿積立金	150,000	0	150,000
年報費	2,626,500	2,533,800	92,700
予備費	500,000	100,000	400,000
小計	7,108,500	7,240,800	-132,300
預かり金	690,000	690,000	0
次年度繰越金	1,009,990	1,030,600	-20,610
合計	8,808,490	8,961,400	-152,910

幹 事 会 記 録

第 8 回幹事会記録

【日 時】1995年4月22日（土）午後5時～7時30分

【場 所】法政大学大学院棟4F 共同会議室

【出席者】伊藤セツ，大沢真理，加藤佑治，工藤恒夫，栗田健，佐口和郎，高田一夫，西村裕通，二村一夫，竹中恵美子，早川征一郎。監事：佐口卓。ワザハハ：木村周市郎・白井英之（成城大学）

【報 告】

代表幹事から学会の現況について次のような報告があった。

1. 会員数（4月21日現在）855人（うち名誉会員9人）他に，入会承認済みで会費未納2人。
本年度をもって退会の申し出があった方，および逝去が判明した方を除いたため，前回より15人減少した。
 - 1) 逝去 川添善弘（12月20日），湖尻賢一（1月16日），永末十四生（3月6日），平田富太郎（3月20日）
 - 2) 退会届提出者 伊藤博，浦辺史，山本順子，沼田稲次郎，吉武清彦，斎藤公男，和泉雄三
 - 3) 会費納入状況（4月20日現在）〔省略〕
2. 第90回大会準備状況
成城大学・木村周市郎氏から，大会プログラムが出来上がり，すでに発送されたことが報告された。
3. 学会賞の選考結果について
学会賞選考委員会の栗田健委員長から，同日2時から開かれた第2回選考委員会において，別項のように学術賞および奨励賞を決定した旨報告された。
4. 年報編集委員会報告
年報編集委員会の高橋祐吉委員長から，年報の編集状況について文書による報告があった。
5. 会費値上げ問題アンケートの中間集計（4月21日現在）回答176人……〔省略〕
6. 加藤佑治幹事より，日本学術会議経済政策研究連絡委員会に関し報告があった。とくにシンポジウムの内容・運営など経済政策研連の運営が 経済政策 に偏っていることについて，研連内で批判が出されたことが紹介された。
7. 国際交流小委員会の栗田健幹事から，EALE（ヨーロッパ労働経済学会）の会議報告集が届いており，希望者は利用されたいとの報告があった。また同学会の executive member 選挙に関し，立候補者募集通知があった。今回は入会直後のことでもあり見送ったが，いずれは考慮すべき問題であろうと報告された。

【議 題】

1. 1995年度予算案について
代表幹事から，これまで予算案は本部で決め，提出直前に幹事会で検討してきた。しかし財政が大きな問題となっている時でもあり，1995年度予算案は幹事会で審議して作成したいとして「1994年度仮決算報告」，「1995年度予算案作成資料」について説明があった。
予算案については複数の案が提起された。A案は前年度と基本的には同額だが，学会賞など新設費目があるので収入より支出がきわめて大きくなる。B案は報告要旨集印刷費を大幅に削減し，本部費なども抑えた案である。ただし予備費を30万円に増やしてある。C案は収支をほぼバランスさせた案。そのために，報告要旨集の印刷をやめ，部会分科会の補助金や業績リスト，名簿発行も，とりあえずゼロにしている。ただし，調整原資として100万円残し，これをゼロ費目の復活，あるいは新費目に振り向けよう。
この報告提案をうけ討議したが，結論は出し得なかった。論議が集中したのは，報告要旨集の印刷中止の可否，部会・分科会の補助費の見直し問題などであった。報告要旨集は，95年度についてはすでに原稿を集めているので止めることはできないこと，業績リストや名簿は継続すべしとの意見が多かった。ただ，会費値上げに関するアンケートがまだ集約途中であり，最終的には大会前日の幹事会であらためて検討した上で予算案を確定し，総会に提出することになった。
2. 第92回大会以降の春の大会の共通論題について
第92回大会以降の共通論題および個別のテーマなどについて，高田幹事，佐口幹事より趣旨説明があった。討論は，来年の大会を念頭において作成された高田提案を中心にすすめられた。主な論点はつぎのとおり。
高田提案について・（1）高齢化だけでなく，少子化も同時に視点に入れたらどうか。（2）家族構造の変動を考慮に入れる必要がある。（3）人口変動の内容をもっと具体的に必要がある。（4）報告が全体として，バラバラな報告が並ぶ感じがするなど。
佐口提案について・東アジアと南アジアでは，社会・労働事情が大いに違う。地域をもっと限定したほうがよいのではないかなど。これらの意見を参考に，高田・佐口両幹事に検討を願い，次回の幹事会にあらためて提案してもらうことになった。

3. 入会申し込みに関する件 下記の6人の入会が承認された。

張 啓 新	一橋大学大学院	推薦者	高田 一夫	二村 一夫
堀 千鶴子	一橋大学大学院	推薦者	高田 一夫	二村 一夫
坂本 重雄	静岡大学人文学部教授	推薦者	三富 紀敬	布川日佐史
福沢 直樹	名古屋大学経済学部専任講師	推薦者	大沢 真理	田端 博邦
小野沢あかね	津田塾大学国際関係学科助手	推薦者	大沢 真理	田端 博邦
高田 実	有明工業高等専門学校講師	推薦者	早川征一郎	二村 一夫
鎮目 真人	大阪府立大学大学院	推薦者	庄谷 怜子	里見 賢治

4. 分科会責任者の決め方について

社会保障分科会の横山和彦会員（新潟大学）より、現在、空席の生活問題分科会責任者を初め、分科会責任者の決め方について、幹事会で決めてほしいとの要望が出ていることが紹介された。討論の結果、従来どおり、各分科会の自主的な決定に委ねることが確認された。

以上

第9回幹事会記録

【日 時】1995年5月26日（金）午後2時～5時30分

【会 場】成城大学3号館（経済学部）1階会議室

【出席者】伊藤セツ、加藤佑治、菊池光造、工藤恒夫、熊沢誠、栗田健、下山房雄、高田一夫、高橋祐吉、竹中恵美子、西村裕通、二村一夫、浜岡政好、早川征一郎、佐口卓。
オブザ - バ - : 木村周市朗、立川潔（成城大学）

【報 告】

1. 代表幹事から、会の現勢、会費納入状況、会費値上げアンケート結果について報告があった。

1) 会員数（5月25日現在）858人（うち名誉会員9人）他に、入会承認済みで会費未納4人。

2) 会費納入状況（5月25日現在）

95年度会費納入済み	849人中282人（納入率 33.2%）
94年度会費納入済み	861人中733人（納入率 85.1%）
94年度以前会費未納者	126人（未納会費総額 209人年分）
内訳 4年分	8人（32人年分）
2年分	35人（70人年分）
3年分	12人（36人年分）
1年分	71人（71人年分）

3) 会費値上げ問題アンケート結果（別項参照）

2. 学会賞について

栗田健選考委員長より、第1回社会政策学会賞の選考経過について報告があった（別項参照）。

【議 題】

1. 1994年度決算について（別項参照）

異議なく承認された。

2. 社会政策叢書の購入義務化問題

会員アンケート結果を参照しつつ、活発な議論が行われた。議論は、大会を現行の年2回制から年1回制にするか否かも関わって進められた。代表幹事から、アンケート結果から見ると、叢書を学会の正規の事業とし、会費に叢書代金を含めることについて会員の意見は大きく分かれている。また大会年1回開催を支持する意見が少なく、もし叢書購入の義務化を提案するとなれば大会開催を年1回にすべきだとの意見が出るであろう。年1回開催は、会員の会費負担を軽減することにはなるが、他方、会員の多様な関心を満たすテーマ設定が困難となり、また地方在住の会員が学会に積極的に参加する機会を減らすことになる。年2回開催を維持した上で、会費の大幅値上げを避けるには、叢書購入の義務化は困難であろうとの判断が示された。また、それに代わる措置として、本年度予算で叢書刊行補助費を設けることが提案された。討論の結果、大会の年2回開催は維持し、叢書購入の義務化については見送ることが確認された。

なおこの問題に関連して、叢書刊行が無理なら、年報に秋の大会の報告も盛り込む、ハードカバーでなく、雑誌型の機関誌を年2回（以上）出すなど、多様な意見が出された。それらの意見もふくめ、今後あらためて検討することになった。

3. 1995年度予算案について

代表幹事が提案した予算案をめぐる議論がかわされた。主として問題となったのは、大幅に削減された報告要旨集の印刷費と研究大会開催費、および新設の叢書刊行補助費と大幅に増額された予備費についてであった。最終的には、「叢書編集委員会費」として94年度と同額の24,000円を計上し、それに応じて次年度繰越金を減額することとし、あとは原案通り承認された。なお、今回の予算ではニューズレターの印刷費は特に計上しなかったが、次期本部隊が現本部隊のような形でニューズレターを出せるとは考えられないので、

96年度予算では、同刊行費を新設せざるを得ないであろうことも確認された。

4. 社会政策学会会則改訂案について

代表幹事から、新たに策定した会則改訂案の説明があり、前半部分を中心に議論がおこなわれた。その結果、顧問の規定を削除することが確認された。また、年報編集委員会の名称を機関誌編集委員会とすることなどが了承された。夫婦会員制度については廃止意見と存続説が出された。時間が限られていたので、明日以降も論議を継続することとした。

5. EALE (ヨーロッパ労働経済学会) について

栗田幹事から、「同学会より役員選挙の投票について案内がきている。しかし、まだ事情がよく分からないので、今回は棄権することにしたい」との提案があり、異議なく承認された。

6. 入会申し込みに関する件

つぎの8人の方の申し込みを検討し、全員の入会を承認した。

氏名	所属	推薦者
井口 泰	(関西学院大学 経済学部)	池田 信, 大前朔郎
伊東真理子	(同朋大学 社会福祉学部)	森田 劭, 池田 信
黒田 慶子	(立命館大学)	藤原壮介, 黒田兼一
篠原 健一	(同志社大学大学院)	辻村一郎, 石田光男
清 一郎	(関東学院大学 経済学部)	大沢真理, 野村正實
千田 忠男	(同志社大学 文学部)	辻村一郎, 石田光男
田中 和雄	(大阪市立大学 商学部)	林 正樹, 長谷川廣
野原 博淳	(日仏会館)	下山房雄, 高橋祐吉

第10回幹事会記録

【日時】1995年5月27日(土)午後12時~1時

【場所】成城大学7号館

【出席者】相沢与一, 荒又重雄, 伊藤セツ, 大沢真理, 加藤祐治, 菊池光造, 工藤恒夫, 熊沢誠, 栗田健, 佐口和郎, 下山房雄, 清山卓郎, 高田一夫, 高橋祐吉, 竹中恵美子, 戸塚秀夫, 西村裕通, 二村一夫, 野村正實, 浜岡政好, 早川征一郎, 美馬孝人, 佐口卓

【報告】

1. 第9回幹事会の討議事項と結果について

1995年度予算案, 叢書問題等に関する前日の審議経過について, 代表幹事から報告があった。

【議題】

1. 社会政策学会会則改訂案について

代表幹事から, 改訂案のポイントについて改めて次のような説明があった。

名誉会員について一般的な文言による制限の規定をもうけた。顧問制度については, 昨日の幹事会で廃止することで一致した。幹事の人数は従来の若干名を24人と明記した。推薦幹事の選考方法も, 先の改革論議で一致したところを会則に盛り込んだ。監事は何時でも幹事会に出席できるが, 決定には参加しないように改めた。現行会則では会費を3年滞納すると自動的に自然退会することになっているが, これを幹事会で検討の上決定することに改めた。それに応じて, 再入会の手続きも, 3年分の納入でなく, 自然退会前の未納分を全額納めた場合に限り認めることに改める。会則改定手続きを改めた。幹事の選出等に関する規程で, 従来は地域ブロックの帰属を勤務先によることだけを決めていた。しかし, 所属をもたない会員が増えているので, その場合は住所によることをつけ加えた。

討議の結果, 顧問制度の廃止は再確認された。未決定であった夫婦会員については, 本人の意思で選択できるものであると原案通りとした。その他の項目もほぼ原案通りで承認されたが, 細部についてはなお, 検討不十分な点があり, 今後の幹事会で検討することとした。なお改定案は Newsletter に掲載して, 会員の意見を聞き, 秋の研究大会の際の臨時総会を開いて最終的に決定することが確認された。

2. 第9回経済政策研連シンポジウムへの参加について

加藤幹事から, 95年12月1日(金曜)に開催予定の上記シンポジウム(テ・マ: パラダイムの変換と経済社会政策)に, 本学会から報告者とコメンテーターを各1人を出すようにしたいとの提案があり, 承認された。しかし具体的な人選などについては明日の幹事会であらためて審議することとした。

3. 経済学会連合評議員会について, 高田一夫幹事から, 国際会議派遣補助費の応募者を募集していること, 国際経済学協会(International Economic Association)が東アジア経済発展の制度的基礎で円卓会議を開くことなどが報告された。

4. 入会申し込み

つぎの9人の方の申し込みを検討し、全員の入会を承認した。

氏名	所属	推薦者
井上 信宏	(東京大学大学院)	佐口和郎, 森 建資
上西 充子	(東京大学大学院)	佐口和郎, 森 建資
小沢 修司	(京都府立大学 女子短期大学部)	浜岡政好, 伍賀一道
工藤 剛治	(北海道大学大学院)	荒又重雄, 鈴木良始
熊沢 透	(東京大学大学院)	栗田 健, 佐口和郎
野城 尚代	(日本女子大学 家政学部)	高木郁朗, 堀越栄子
藤原 千沙	(東京大学大学院)	佐口和郎, 森 建資
山田 和代	(筑波大学大学院)	本山貞一, 田中洋子
渡邊 幸良	(中央大学大学院)	島崎晴哉, 工藤恒夫

第11回幹事会記録

【日 時】1995年5月28日(日曜)午後12時~1時

【場 所】成城大学7号館

【出席者】荒又重雄(地方部会打合会に出席), 石田光男, 伊藤セツ, 大沢真理(総括討論打合会に出席), 加藤佑治, 菊池光造, 工藤恒夫, 熊沢誠, 栗田健, 佐口和郎, 下山房雄, 清山卓郎, 高田一夫, 高橋祐吉(年報編集委員会に出席), 竹中恵美子, 戸塚秀夫, 西村豁通(地方部会打合会に出席), 二村一夫, 野村正實(総括討論打合会に出席), 浜岡政好, 早川征一郎, 美馬孝人(地方部会打合会に出席)。

【報 告】

1. 96年春の大会開催校候補として、日本大学商学部と折衝が進んでいることが報告された。

【議 題】

1. 96年春の大会の共通論題について

高田幹事から、「生活問題の現在」という共通論題で、その考え方と報告題目の案が提出(当日配布資料参照)され、それをめぐって議論が行われた。議論は、「生活問題の現在」という共通論題の理解をめぐって、また報告題目案についてもさまざまな意見が出された。最終的には、高田幹事が次回の幹事会以前に原案を文書で作成し、これを全幹事にあらかじめ配布して意見を求め、次回幹事会で決定することになった。

なお、今回は自由論題分科会とは別の時間帯に3つのテーマ別分科会を開いたが、これは会員の間でも比較的好評であり、来年度の大会でもジェンダー分科会を含め3つ程度のテーマ別の分科会を開催すること、同時にテーマ別分科会の討論時間を延長することなどが確認された。

また、分科会テーマを報告者とセットで公募することや、ペーパー・セッションの開催なども提案された。

2. 会則改正問題

細部について検討の時間がなくなったので、本部から再度手直しした改正案を配布し、各幹事の意見を求めることにした。

3. 第9回経済政策研連シンポジウムへの参加について

前日の議論を踏まえ、社会政策学会から報告者やコメンテーターを出すことを再確認し、人選については加藤幹事に一任することになった。〔その後、本学会から報告者として西村豁通会員を、コメンテーターとしては中西洋会員を推薦し、6月30日の学術会議経済政策研究連絡委員会最終的に決定した。なお、西村会員の論題は「パラダイムの変換と現代社会政策」である。〕

4. 入会申し込みに関する件 つぎの2人の方の申し込みを検討し、ともに入会を承認した。

柚木 理子(お茶の水大学大学院) 戸塚秀夫, 大沢真理

寺中 直人(桃山学院大学 経済学部) 玉井金五, 木下 順

5. 次回の幹事会は7月22日13時半からとし、また秋の研究大会前日の10月20日(金曜)にも幹事会を開くことを決めた。

名簿記載事項の追加訂正

以下は、Newsletter No.3 発行後に判明した事項です。ご訂正ください。なお、住所、電話番号がいずれも変更されている場合は、旧住所・旧番号の記載を省略しました。

【所属・住所変更】

青山 悦子
青山 秀雄
石井 徹
石田 好江
石塚 良次
井上 敏夫
植田 章
歌川 悦子
内田 一秀
岡崎 琢也
小笠原浩一 山形大学 埼玉大学 経済学部
小野塚知二
唐鎌 直義
河野 善隆
小槻 直史
佐藤 嘉夫
小路 行彦
菅谷 広宣
杉本 龍紀
杉山 清
鈴木 良始 札幌大学 経営学部 北海道大学 経済学部
高畑 明尚
田中由布子
秋龍
塚本 一郎
辻 義昌
蔦川 正義
東條由紀彦
中上 光夫
中川 香代
中山 徹
長谷川伸子 九州大学 大学院 九州大学 経済学部
馬場 康彦
樋口 兼次 拓殖大学短期大学部 白鷗大学 経営学部
日野 秀逸
平地 一郎
廣重準四郎
藤田 栄史
保谷 六郎
星野 信也 都立大学 人文学部 日本女子大学 人間社会学部
堀 龍二
前田 信雄
三井 逸友
山田 寿一
山本 真一
吉村 臨兵

【新入会員】

井口 泰	関西学院大学 経済学部
小沢 修司	京都府立大学
工藤 剛治	北海道大学大学院
黒田 慶子	立命館大学
鎮目 真人	大阪府立大学大学院
清水 耕一	岡山大学 経済学部
高田 実	有明工業高等専門学校
福澤 直樹	名古屋大学 経済学部
堀 千鶴子	一橋大学大学院
山田 和代	筑波大学大学院
柚木 理子	お茶の水女子大学大学院
渡邊 幸良	中央大学大学院

分科会報告者 テーマ 大募集

第92回大会は1996年5月18日、19日の両日、日本大学商学部（世田谷区祖師谷）で開かれることが内定しました。いま、同大会における分科会のテーマおよび報告者を大々的に募集しています。分科会テーマの場合は、報告者についての希望も記してください。なお、関連テーマに関する複数の報告希望者が組になってテーマ別分科会として申し込まれることも歓迎します。また、これまで通り、自由論題についての報告希望者も募集します。どの場合も、テーマの主旨、報告要旨などを400～600字程度にまとめ、1995年10月10日までに本部宛お送りください。とくに大会で発表されたことのない、若手会員が積極的に応募されることを期待しています。

訃報 下記の会員が逝去されました。謹んで哀悼の意を表します。

大陽寺 順一 会員（一橋大学名誉教授、1982～84年度代表幹事） 5月 6日逝去。

松原 昭 会員（早稲田大学商学部教授） 7月 2日逝去。

【お詫びと訂正】

Newsletter no.3 で、寒川尚周会員の住所が変更された旨を記載しましたが、誤りでした。名簿の記載事項に変更はありません。お詫びして訂正いたします。

名簿につぎの誤りがありました。お詫びして訂正いたします。

宮田 千藏

吉澤 昌恭

発行

社会政策学会

代表幹事 二村 一夫

〒194-02 東京都町田市相原町4342

法政大学大原社会問題研究所内

電話 0427-83-2307 FAX 0427-83-2311
